

# 「キリストの愛にとどまる」

ヨハネ15：9

堀田修一 24・3・17

本日は、定期総会です。本日の説教では、新年度の目標のみことばを説き明かします。参照：総会資料。

I 「父がわたしを愛されたように」とは。次のみことばが、御父の御子への愛の本質が明確に示されています。

- ①御子が私たちの救いのために人となられバプテスマを受けられた時に、天から御父の御告げがありました→「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」マタイ3：17。
- ②イザヤを通しての預言のみことば「見よ。わたしが選んだわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの愛する者」。マタイ12：18。
- ③主が高い山に登られ、御姿が変わり、顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった時に、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」という御父の御声がありました。マタイ17：5。この三つのみことばの共通点は、御父が御子を愛された愛とは、「御子の存在を喜ぶ」という愛です。聖書が教える真の愛、究極の愛は、相手の「存在を喜ぶ」愛です。

II 「わたしもあなたがたを愛しました」の意味

1. この愛は、キリストが、私たちの罪のために十字架で死なれた愛、私たちの業績ではなく、御父の愛のように私たち自身、私たちの存在を喜び愛しておられるという深い愛です。「わたしの目には、あなたは（あなたの存在は）高価で尊い。わたしはあなた（あなたの業績ではなく、あなたの存在）を愛している」（イザヤ43：4）。相手の要求に完璧に応えた時だけ、愛してもらえる関係では、とてもつらいものです。私たち人間は、私たちの何かではなく、うまくできない時も、私たち自身、私たちの存在を受け止めてくださる愛を求めています。子どもも大人も※ある子や人々は親や人々の期待に応えた時だけ愛されると感じる。人と比較され悩む。人々の期待に応えられない時、自分には価値がないと悩む。すべての人は、神の無条件の愛を必要としている。神の恵みで良く出来たときは「よくやった」（マタイ25：21）と励ましてくださり、失敗した時も変わらず慰め愛してくださる方が、御父でありキリストです。主は、失敗の多い弟子たちを見捨てず愛され、今の私たちも、失敗、欠点が多くても、永遠に変わらない愛、私たちの存在を喜び愛で愛されています。年齢、障害、認知症等でこれまで出来ていたことが出来なくなっても、神の愛の目に、私達はかけがえのない尊い存在、他の誰とも取り替えようのない唯一の存在。

2. 主キリストの愛＝業績主義ではない、まず私たちを愛し私たちの罪のために十字架で死に復活し救い、私たちの存在を喜び愛し、私達との交わりを幸いとされる愛であることを示すみことば→「イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、①彼らをご自分のそばに置くため、②また彼らを遣わして宣教をさせ」マルコ3：14。このみことばで、大切な優先順位が示

されています。もちろん主は、弟子たちが、現在の私たちが、人々に救いの福音を宣教することを喜ばれます。しかし、その前に、任命の目的の第一が「彼ら（私たち）をご自分のそばに置くため」であることは非常に重要です。これは、宣教、伝道、奉仕の前に、私たちが、毎朝、朝が難しい方は、ある時間を聖別し、自分を主のそばにおいて、主とゆっくり交わることの大切さを教えています。私達の存在、交わりを最も喜ばれる主の深い愛です。主は、弟子たち、私たちを、宣教・伝道のマシーン、駒、道具にしようとはされません。私たちの人格を愛し、私達との愛の交わり、私たちの存在を喜ばれます。宣教、伝道、奉仕の前に主の愛、恵みに憩いましょう。主との幸いな交わり（祈り、みことば、静まり）は次のみことばにつながります→「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。主は私のたましいを生き返らせ 御名のゆえに 私を義の道に導かれます。たとえ 死の陰の谷を歩むとしても私はわざわざを恐れませんが、あなたが私とともにおられますから（私の存在、人格的な交わりを喜ばれますから。）」（詩篇23篇）。主の愛にとどまる「Being」の恵みから感謝の「Doing」が生まれます。

### Ⅲ「わたしの愛にとどまりなさい」：9の意味

1. 「とどまりなさい」とは。「とどまる」の原語：「①とどまる、離れないでいる、滞在する、宿る、住む（詩篇23：6の「主の家に住まいます」につながる）。②引き続きいる、いつまでも…である。③存続する、いつまでもいる」の意。主の愛に、日々とどまり続けることが信仰生活の秘訣です。「住む」という漢字は、人が主のそばにいと受け取れます。年齢や病や障害のために出来る事が少なくなっても主の愛の前に、あなたや隣人の価値は変わらない事実を日々認めましょう。主の目に高価で尊い存在！

2. 私たちが主と主の愛にとどまり続けることができるのは、先行的恵み＝主がまず私たちを愛し主を信じる私たちの心の中に住み、留まってくたさるからです。主が私たちの内に留まられるのは愛。愛してない人の心には留まりたくありません。「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです（主の愛のしるし）。いま私が肉において生きているのは、私（私自身、私の存在）を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです」ガラテヤ2：20。

「キリストの愛が私たちを捕らえているからです」Ⅱコリント5：14。私たちの愛が主を捕らえることが信仰生活の条件なら、いつか私たちの愛が冷え、主への信仰の手を手放すでしょう。私たちは、とっくに主への信仰から離れているでしょう。しかし、心配はいりません。私たちが主を捕らえるのが先ではなく、偉大な主と主の愛が私たちを永遠にがっちり捕らえ、決して離されないのです。尊い存在として。

「私は、すでに得た（救いの完成の栄化を）のでもなく、すでに完全（栄化）にされているのでもありません。そして、それ（救いの完成）を得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです」ピリピ3：12。私たちがキリストを捕らえたのではなく、キリストが私たちを捕らえてくださったのです。その先行する愛と恵みのゆえに私たちは主を信じる事ができたのです。「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び」ヨハネ15：16。

3. キリストの愛と恵みにとどまり続ける信仰生活の結果、結実

①主の愛と恵みは、私たちが弱く、最悪と思える日々においても十分であることをいつも覚えまし

よう。

「主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである』と言われました。…ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいきます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです」Ⅱコリント12：9，10。 ※境遇と対処の区別。

②信仰生活には、良くできたと思える日と今日は心の罪と弱さと失敗の日だったと思える日があります。良くできた日は主に愛され、良くなかった日は主に愛されていないという実績主義の考えの奴隷にならないようにしましょう。自分の罪を認め主を信じ義と認められた（罪の性質が残っている私たちに罪のない主の義の衣が着せられている）私たちに主は、良い日も良くなかったと思える日も、変わらない愛で愛し続けてくださいます。ですから、私たちは、日々、自分の罪を隠さず正直に神に告白し罪を赦され、きよめられ（Ⅰヨハネ1：9）、感謝して、喜びをもって、愛の主について行くことができるのです。

③主の愛と恵みにとどまる時、主から愛と恵みをいただいて、律法主義、義務感からではない、主の愛と恵みに感謝しての証し、宣教、献金、奉仕、祈り合い（※詩の証）が生まれる。「私にとって神のみそばにいる（神と交わる恵み）ことが幸せです。私は神である主を私の避け所としあなたのすべてのみわざを語り告げます」詩篇73：28。「諸教会に与えられた恵み…彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました」Ⅱコリント8：1，2。「互いのために祈りなさい」ヤコブ5：16。賛美歌52番をもって愛の主を賛美します！